

2025 年 10 月 20 日

## 【SUPER GT 第 7 戦 / オートポリス レポート】

**最終盤の逆転劇で、seven × seven PORSCHE GT3R が歓喜のチーム初勝利**



2025 年の SUPER GT 第 7 戦がオートポリスで開催。シーズン第 7 戦となる今大会は、搭載するサクセスウェイトが獲得シリーズポイント×1kg に半減。GT300 クラスでランキング上位につける「リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手／平手晃平選手)」、「グッドスマイル 初音ミク AMG(谷口信輝選手／片岡龍也選手)」、そして CARGUY FERRARI 296 GT3 はサクセスウェイトが 50kg を超えるため、給油リストラクター径の調整を併用することになっている。

公式予選はぐずついた天気のもとでスタート。GT300 クラスの Q1A 組では「CARGUY FERRARI 296 GT3(ザック・オサリバン選手／小林利徠斗選手)」のオサリバン選手が 2 番手に 0.5 秒近い大差をつけてトップタイムをマークし、続く B 組では公式練習でトップタイムだった「VENTENY Lamborghini GT3(小暮卓史選手／元嶋佑弥選手)」の元嶋選手がトップと、両組でヨコハマタイヤ勢がライバルを圧倒した。Q2 でもこの 2 台が主役となり、それまでトップタイムに着けていた VENTENY Lamborghini GT3 の小暮選手が最終ラップで自己ベストタイムを更新。これで勝負ありかと思われた直後、その後ろでチェッカーを受けた CARGUY FERRARI 296 GT3 の小林選手が小暮選手のタイムを上回りトップを奪取。これで CARGUY FERRARI 296 GT3 の 2 戦連続ポールポジションが確定した。3 番手、4 番手にはライバルメーカーが割って入ったが、「seven × seven PORSCHE GT3R(ハリー・キング選手／藤波清斗選手／近藤翼選手)」が 5 番手に。GT500 クラスでは、「WedsSport ADVAN GR Supra (国本雄資選手／阪口晴南選手／小高一斗選手)」、「リアライズコーポレーション ADVAN Z(松田次生選手／名取鉄平選手)」が揃って Q1 を突破。Q2 ではそれぞれ 9 番手、10 番手となった。



翌日の決勝レースは、途中で雨の予報もあったが、最後まで本格的な降雨はなく、ドライコンディションで行われた。GT500 クラスのリアライズコーポレーション ADVAN Z はオープニングラップから松田選手が 8 番手のマシンに接近。テールトゥノーズの戦いが続く中、12 周目の 3 コーナーで接触し、コースアウトしてしまう。ガードレールに車両左側をヒットし、戦列を離れることに。レースはフルコースイエロー(FCY)からセーフティカー(SC)が出され、GT300 クラスでは CARGUY FERRARI 296 GT3 のオサリバン選手が 2 番手以下を大きく突き放していたが、この SC 導入でギャップが消滅。ただし 16 周目にリスタートが切られると再びその差をぐんぐんと広げていった。約 1 時間が経過したところで、上位陣ではまず CARGUY FERRARI 296 GT3 が 1 度目のピットイン。その翌周にピットに向かった VENTENY Lamborghini GT3 はリヤタイヤだけの交換で作業時間を短縮し、CARGUY FERRARI 296 GT3 の前に出ることに成功した。前後のタイヤの周回数が異なり難しいバランスでの走行を任された元嶋選手は、勢いのある CARGUY FERRARI 296 GT3 に終始詰め寄られる展開となったが、ディフェンディングチャンピオンの意地を見せて事実上のトップを死守。2 度目のピットインでは車両がピットに戻ってきた直後に FCY が出たことで、大きくマージンを稼ぐことに成功した。



しかし、その後 VENTENY Lamborghini GT3 と CARGUY FERRARI 296 GT3 のそれぞれに出されたドライブスルーペナルティが影響し、順位は CARGUY FERRARI 296 GT3 が 1 位に、順調な追い上げを続けてきた seven × seven PORSCHE GT3R が 2 位に、VENTENY Lamborghini GT3 が 3 位にという展開が変わった。そして終盤、盤石の体制かと思われた CARGUY FERRARI 296 GT3 が燃料不足のため緊急ピットインとなり、seven × seven PORSCHE GT3R がトップに躍り出た。この時、残り 10 分。ノーペナルティで好ペースを維持したまま 3 時間を走り切った seven × seven PORSCHE GT3R はトップチェッカーを受け、今季から参戦する新チームで嬉しい初優勝を遂げた。2 位は CARGUY FERRARI 296 GT3、3 位は VENTENY Lamborghini GT3 で、ヨコハマタイヤ勢が表彰台を独占。さらに 4 位にリアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R が、5 位に UNI-ROBO BLUGRASS FERRARI が入り、GT300 の 1 位から 5 位までをヨコハマタイヤ勢が占めることとなった。

GT500 クラスは、10 番手からスタートした WedsSport ADVAN GR Supra が、混乱にも巻き込まれることなく上位陣と遜色ないペースで周回を続け、じわじわとポジションアップ。阪口選手が担当した最終スティントでは 4 番手のライバルと最後まで接近戦を繰り広げた。惜しくも逆転には届かず 5 位フィニッシュとなったが、最後までタイヤと車両のポテンシャルを引き出し今季最高位タイの結果で過酷なオートポリスラウンドを終えることとなった。

■ハリー・キング選手 (seven × seven PORSCHE GT3R)

【今回の成績：GT300 クラス 優勝】

今回の勝利は、驚きの入り混じった喜びを感じています。非常に嬉しいです。性能調整(BoP)やサクセスウェイトでかなり苦しい状況だったので優勝は難しいと思っていたのですが、公式練習からタイヤとマシンのパッケージがとても素晴らしいことを確認できたので、決勝に向けても期待が持っていました。ルーキーイヤーでの優勝という個人的な目標も達成することができ、それも嬉しいです。

■藤波清斗選手 (seven × seven PORSCHE GT3R)

【今回の成績：GT300 クラス 優勝】

僕自身は2022年の開幕戦以来の久々の優勝で、非常に嬉しく思っています。レースの前半を担当しましたが、キング選手にいい状態でプッシュしてもらえるように僕のステイットを引っ張るのが作戦でした。スタートで2台に抜かれてしまったものの、クルマの仕上がりもヨコハマタイヤも戦闘力があつたので、周りと比べても悪くないペースで周回数を伸ばすことができ、キング選手にいいバトンを渡せたと思います。最終戦のもてぎもポルシェとの相性は悪くないのではと考えているので、2勝目を挙げられるように頑張ります。

■国本雄資選手 (WedsSport ADVAN GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 5位】

オートポリスは非常にタイヤに厳しいサーキットですが、予選のパフォーマンスがあり、決勝に向けてもウォームアップ性能がいいタイヤでスタートすることができました。自分のイメージからは秒単位で遅いペースでしか走れないような状況でしたが、僕たちだけでなくライバルメーカーも同じだったので、路面状況や温度といった部分が影響していたのかもしれない。厳しいレースでしたが、他車と比較して負けている部分はとても少なく、逆に勝っているところも多かったです。自分たちがやれることは出し切れたと思っているので、5位でのゴールはポジティブにとらえています。

■阪口晴南選手 (WedsSport ADVAN GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 5位】

レースの前半、戦略でうまくポジションを上げた後、国本選手が今日のMVPに匹敵するぐらいの走りを見せてくれたので、僕もポジションをしっかりと受け継いでいいレースをしようと気持ちが上がりました。バトルシーンもかなり多かったのですが、チャンスのときには前に出られたし、厳しいところはしっかりとおさえることができたので、内容としては今日の最大限を出せたのかなと思っています。前戦に比べるとかなりレースペースも良くなり、過酷なオートポリスでみんながレースペースに苦しんでいる中、スプリントレースを除いた中で、今季最上位でゴールすることができたのは良かったです。涼しい時期のもてぎ大会につながられるレースになりました。

■中崎敬介 [横浜ゴム(株) タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発1グループリーダー]

3時間の長いレースに臨むうえでタイヤのグレイニング(≒耐久性)に特に気を付けたタイヤ選択をしました。オートポリスは路面の攻撃性が高いサーキットであることに加え、寒くなるのか、ならないのかという路気温の微妙な読みを必要とするこの時期の開催のため、コンパウンドの選択はいつも以上に難しくなります。GT300では多くのチーム(車両)で、そのタイヤ選択がハマったのだと思っています。

GT500、GT300のドライバーともに「ピックアップに苦しんだ」という声をよく聞いたので、それが全体的なレースペースが遅くなった原因の一つと考えられます。

最終戦のもてぎでは GT500 でもう 1 つ勝ちたいことと、GT300 ではチャンピオン争いをする複数のチームの足元を支えているため、今シーズンの締めくくりとして全力で臨みます。